

龍 聲

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502
新潟県南蒲原郡田上町
曹洞宗 東龍寺

電話 (0256)57-3395
FAX (0256)57-2174
E-mail: ryusei@ginzado.ne.jp

ホームページ

<http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>

瑩山禅師のみ教えに導かれて

東龍寺住職 渡邊 宣 昭

昨年は、大本山總持寺をお開きになりました瑩山禅師（一二六四—一三二五）の七百年大遠忌（五十年に一度）でした。

瑩山禅師には、数々の御功績があります。その中でも仏の教えを分かり易く檀信徒に説かれ、檀信徒とのつながりをとても大事にされた方でした。

その御著書『洞谷記』に次のようなお示しがあります。
瑩山が今生の仏法修行、此の檀越の信心に依って成就す。

「私瑩山の現世での仏法修行は、この檀越（信者）の方々の信心によつて成就することができた」という意味です。

私は、お盆の棚経を通して、自分が僧侶になる決断をする上で、この瑩山禅師のみ教えの如く、檀家の方から深く影響を受けた思い

出があります。

私は、東龍寺の先代住職の長男として生まれ、今年六十九歳になります。御盆の棚経を始めたのは、小学校五年生（当時十歳）のときでした。それまで、手伝いに来てくれていた先々代住職（私の祖父）の弟子に当たる庵主様が事情で来られなくなり、祖父から「宣昭、今年からお盆の棚経を覚えて回ってもらいたい」と言われて、母の伯父が住職をしているお寺に私と年が前後する住職の三人の孫（私とは又従兄弟）と一緒に、急遽泊まり込みで、お盆の棚経でおつとめする「甘露門」



石附周行紫雲臺祝下と記念撮影、於・大本山總持寺 12月17日（写真提供 遊行会）

中では、お経を読み始めたんです。途中で目が覚めて「私はいま何をやってるのだろう」とは思ったのですが、なぜか止められませんでした。父と母が横で不思議な顔をして私の様子を見ていたのは分かったのですが、それでも身体が金縛りに会ったみたいになって止められなくて、お経が終わるまで唱えたら、そのままパタツと寝てしまいました。そんな思い出があります。

私自身は理数系の科目が好きで、学生時代はそちらを専攻しておりましたが、お盆の棚経だけは昭和四十一年から、ずっと毎年おつとめして来ましたが、最終的に就職するかお坊さんになるかという大事な選択のとき、棚経で檀家さんが「あつてお寺の若さん、若さん」と言ってくれたことが、それが年に一回、三日ないし四日間ではないんですけれど、私にとってお坊さんになる一番大きな力になりました。特に、暑い中で後ろから団扇で扇いで下さる方の涼やかな風の心地よさは格別でした。小僧の私に対して、「御先祖の供養続けて行ってほしい、い、そして、いつかは御自身も葬儀・供養をしてもらいたい」という願いが伝わって参りました。

住職になって今年で四十二年目になります。コロナ禍を経て、寺檀関係が希薄になりつつありますが、檀家の皆さんの願いをしつかりと受けとめて、寺檀和合の精神で、初心を忘れずにつとめていこうと念じております。 合 掌

尚、掲載した集合写真は、私が令和六年度まで四周年会長をつとめさせて頂いた布教を志す曹洞宗僧侶の全国組織「遊行会」の布教研修会で、大本山總持寺貫首・石附周行紫雲臺下から、「瑩山禅師のみ教えについて」と題して特別講義を頂いた折の記念写真です。

仏前結婚式

関川村 雲泉寺住職 神田 恭真
寺 族 舞 子 真 子

令和六年四月二十日、雲泉寺本堂におきまして、両家親族と檀信徒の皆様に見守られながら仏前結婚式を挙げることができました。晴れわたる空の下、式師・東龍寺住職渡邊宣昭老師のお導きにより、厳粛で温かい儀式になりました。無事にこの日を迎えることができ、感謝しております。

妻は雲泉寺と同じ集落の檀家様であり、ご家族の皆様には日頃よりお世話になっておりました。仏画や書が好きで楽しく話せる関係でありました。いつも何かと氣にかけて励ましてくれたことがもとで結婚することとなりました。

渡邊老師は私の二人の兄の仏前結婚式の時にも式師をおつとめくださりました。私たちも同じく導いていただき、ありがたく思っております。老師には節目節目に指針となる法話をお話いただきました。広厳寺様の大般若会では、道元禅師の教えについての法話の中で「仏さまからいただいた尊い命。皆さん一人一人がいただいた命。そのことを苦しいことがあっても前向きに受けとめていく。その時その時を前向きに受けとめていく



神田恭真師・舞子さん、仏前結婚式 4月20日



恭真師と舞子さん

ことが普勧坐禅儀で示されている本来の面目」こうお話されました。そして、この度の仏前結婚式の式師示訓では「檀信徒の皆様を大切にしながら、お互い尊敬し合ってお過ごしいただきたい」と教え示されました。令和四年に県北豪雨が起り、雲泉寺も未だ復興中でありますが、つらいことも前向きに受けとめていくことができました。また日々の檀信徒の皆様との繋がりと教化の大切さを感じました。

東龍寺様へ二人でご挨拶にお伺いした際の出来事です。東龍寺様の山門が田巻家からいただいたものであることを知って妻はとても驚いていました。関川村の郷土資料館で学芸員として勤めている妻は、渡邊邸の十一代当主萬寿太郎の母「おつな」の生家である田巻家の離れ座敷「椿寿荘」を訪れたことがありました。渡邊萬寿太郎は戦前戦後の混乱期に関川村長として邁進し、村の礎を築きました。富や財に執着しなかった萬寿太郎

の人柄は現在も慕われています。東龍寺様と田巻家、田巻家と渡邊家、そして渡邊家と自分との繋がりを思い、不思議な気持ちになつたそうです。

私たちは結婚に際して心から縁の導きを実感することができました。周りの方々や環境も縁あつてこそのものでしょうか。

末筆ではございますが、東龍寺様に感謝申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を願っております。

住職より一言

神田家の長男・孝純師、次男・秀孝師に引き続き、三男・恭真師と舞子さんの結婚式の式師をつとめさせて頂いた事、大変有り難く光栄に存じております。

三十年近く前に、新潟県第四宗務所主催の徒弟研修会が、東龍寺で行われました。その折、父である英俊老師が、三人のお子さんに白衣を着せておられる姿が忘れられません。恭真師の初々しさは、特に印象に残っています。

また、舞子さんが関川村の学芸員として、東龍寺檀家の千町歩地主・田巻七郎兵衛家と縁戚の渡邊邸の事を詳細に調べておられたことも不思議な縁を感じます。

御多幸を御心よりお祈りしております。

再開された典座から【第二十四回眼蔵会 七月四日(木)〜六日(土)】

山口県 妙光寺住職 山 縣 洋 典

この度、典座（台所）係りの一人を賜りました山縣です。前回までもこの係りの一端を拝してましたが、ご存知の通り新型コロナウイルスが起り、その期間は山内での食事提供が出来ず今回に至りました。

また、その間に長きに亘り典座の長を勤められていた、元大本山永平寺副典の二瓶法道老師が遷化（逝去）された事もあり、食事提供の再開は正直大変困難を極めました。以前、ご縁があった方々への協力依頼と同時に、新しい人材の招聘を始めとして、献立と買い出し、調理機材器具の点検と準備、また全員の顔合わせ等前日は慌ただしく過ぎていき不安なまま当日を迎えた次第です。

然し、実際に講座が始まり現場が動き始めると、各員が自然にお互いの得意分野を理解し、協力し滞りなく実務が遂行できた事は、全権を委託して下さった主催者の堂長老と、真摯且つ丁寧に講義を勤められた角田老師は勿論の事、随喜のご寺院様、典座の方々のおかげだと感謝申し上げます。そして何より受講生の皆様が「美味し

かった」と言ってお下さり、随分励みになった事も申し添え厚くお礼申し上げます。

さて、この講座期間中の食事提供に関しては、前記しました生前の二瓶老師のお言葉が随時思い出されました。第一には言うまでもなく食の安全性に関してです。賜った食材は、命そのものだから、当然その命と正面から向き合い丁寧に扱うべきであり、決してごんざいに扱う事は許されな

い。また逆にその気持ちをもち続けられ、食の安全性は保てると思われるとおられました。



5年ぶりに復活した応量器による飯台 眼蔵会中日7月5日中食(昼食)

またそれと忘れてはいけないのは、講義の時間帯や受講者の体調によって変化するため、食材の選別と調理方法に常に気を配る必要性についてです。二瓶老師は、食される皆様全



典座寮の皆さん 7月4日

員が美味しいと感じていただける食事提供を心がけるのは一番だが、決して全員が満足できる食事提供が出来ないことも自覚しておくべきと言われました。

それは言うまでもなく、個々がみな異なった人間であるがゆえに皆異なる味覚を持つからに他なりません。その事実に対し多くの食材を薄味、濃い味だけでなく味噌、醤油、塩、生か焼くか揚げるか蒸すかの調理方法、ありとあらゆる組み合わせの中から吟味し満足の一品を提示する方法は経験と学習に頼るしかありません。しかし経験値の浅い私は、食事の皆様の表情や、食事後のそつと洩らされる感想を次に生かす、その繰り返しでした。

私はこうした事は、食の世界だけでなく私たち日々の生活においても同様だと思います。便利な携帯電話の音声や文字だけのやりとりでは窺い知れない、お互いの心の機微や琴線に触れるためには直接会い、声を掛け合うしかありません。この事を仏道では面受（めんじゆ）と言います。電話よりの手紙、手紙よりも直接会う、その必要性和大切さを学ばせていただいた眼蔵会でした。これからも、どうか宜しくお願い致します。

住職より一言

五年ぶりに、寺での宿泊と坐禅堂での応量器による飯台を復活させるに当たり、山縣老師には、要の典座を纏めて下さり、心より有り難く御礼申し上げます。

山口県から三人、長野県から一人、地元一人、五人の諸老宗師にお世話になりました。今年も、宜しくお願いします。

大本山總持寺 太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌参拝

本田上 田 卷 仁

はじめに

東龍寺様に令和六年、元旦年始にお伺いした際に、標記のパンフレットを戴きました。

積台奥の日本一背丈の大黒尊天が迎えてくれました。荷物を宿泊室に置いた後、修行僧の方々から広

永平寺は四、五回参拝、特にコロナ禍前に加茂の定光寺様

大な寺院内の説明と案内が五十分程有りました。

(弟が檀家で誘われた)の一泊二日の参拝に参加致しました。

その際、東龍寺様が本山にお勤め中で、

まずは感じたのは百間廊下からの「向唐門」の大きな菊の御紋と總持寺家紋の「五七桐」が

日本全国の信徒に坐禅と法話を指導しておられ、小生はいたく感銘を受けた次第です。

柱や所々に点在していることでした。

今回は同じ曹洞宗なので、逆に小生が弟を誘い参加致しました。

後醍醐天皇からの十種勅問に対し瑩山禪師の奉答が素晴らしく、帝の歡情に叶い管寺に列せられたことから、菊紋や家紋が許されたのか？何時か「勅問」と「奉

總持寺

五月十五日、総勢二十八名(寺院様三、講数二十五)三条燕インターから「柴又の帝釈天」見学後、夕方鶴見の「總持寺」に到着し、受付の香



大本山總持寺貴首・石附周行紫雲臺祝下との記念写真 筆者前列左から3番目 於・紫雲臺 6月16日

問」と「奉

答」を知りたいものです。

夕食の精進料理後、三松閣大講堂で、布教教化部長・花和浩明老師の法話と坐禅指導(二〇分)があり、法話で印象的なのは瑩山禪師は母の影響から「女人済度」今という男女同権をあの時代に説かれたとのことです。九時就寝。

翌朝四時起床、千畳敷の太祖堂で五時からの朝課に参加、焼香もさせて戴き厳肅な雰囲気でした。

その後紫雲臺で第二十六代石附周行禪師との茶話会・集合写真と普段はあり得ないことだそうで我々誠に有り難く感激の極みでした。

總持寺以外の参拝した寺院

○初日、柴又「帝釈天」(日蓮宗)

映画「フーテンの寅さん」で有名なであり樺の木彫りが素晴らしく、龍や天人が今にも動き出しそうでした。

○二日目 浅草・浅草寺

聖観音宗(昭和二十五年からの名称・前は天台宗)本山の浅草寺は飛鳥時代に創建、現在の賑わい、外人の多さは田舎の参拝者には疲労の蓄積。

○三日目 増上寺(浄土宗)

二日目は東京プリンスホテル宿泊。増上寺は隣で徒歩移動、参拝。徳川家二、六、七、九、十二、十四代將軍の靈廟があり將軍家との因縁の深さを感じました。

○永平寺別院 長谷寺

通称麻布大観音(十一面觀世音菩薩)樹齡六〇〇年・楠の一本彫りで国内最大級の十メートルに圧倒されました。また本堂では年一回・道元禪師の南宋の師、如浄禪師の法要に立ち会う幸運に恵まれました。

永平寺の家紋「久我竜胆」が各所に有り、当に別院でした。

寺院参拝以外の見学も充分堪能でき、更に三日間天候に恵まれ、トラブルも無く日程通りで、寺院様・BS観光・旅行社・新潟交通に対し、心から感謝申し上げます。

住職より一言

とても詳細で綿密な旅行記を執筆下さり有難うございます。

田上本山講の三年に一度の本山参拝が、丁度大本山總持寺太祖瑩山禪師七〇〇回大遠忌の年となり、難値難遇の御縁でした。ただ、私は、団長でありながら、直前に新型コロナウイルスに感染し、参加できなかったことは、引率寺院や参加講員の皆様に申し訳なく、また、残念でもありました。

ただ、田卷仁氏、始め御参加された皆様が一様に喜んで下さったことが何よりの収穫でした。三年後も御参加をお待ちしております。

能登半島地震の文化財レスキューに

参画させていただいて

田上町 松岡 誠一

田上町で仏像文化財修復工房を営んでおります松岡誠一です。ご縁をいただいて東龍寺様の檀家に加えていただきました。宜しくお願ひいたします。日々仏像の修復を行っております。

二〇二四年一月一日の能登半島地震でのお寺の被害は大きく、国の事業の「文化財レスキュー」に参画させていただいて、奥能登の未指定文化財の仏像の応急修復を行わせていただきました。

中越地震の際には、「国や自治体の指定文化財以外は、特定の宗教への援助とも見えてしまうので、行政の方からは、なかなか支援しづらい面がある」ということで、指定文化財以外への支援は行われにくい現状がありました。その後、東日本大震災の時は、「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」の法律名の文化財の横に「等」がつき、未指定の文化財のレスキューも行えるようになりました。そして今回の能登半島地震では、これまでの多くの災害での経験を踏えて、国で文化財防災センターという組織が作られ、その

初めての活動となりました。

私の方では、中越沖地震以降、工房とは別に「地域歴史文化財支援」という組織を作って、そこに少し寄付を募って、交通費だけ出していただいで、作業は私がボランティアで行うというやりかたで、各地の震災、洪水での応急処置活動を行ってきました。

能登で震災が起こって少し経ってから、知り合いの学芸員さんに「何か出来ることがあれば、行って応急処置しますよ」とお話ししていたところ、一度来て欲しいということになりました。奥能登はまだ宿泊施設がない状態でしたので、車中泊で行こうかと考えていたところ、文化財防災センターさんから、日当と交通費と宿泊を国で支



七尾市悦叟寺様の御像 8月7日

援していただけるということになり、国の「文化財レスキュー」の活動に入れていただけることになりました。国からの支援を受けて、未指定の仏像を応急修復出来るなんて、隔世の感があります。

活動に費やしたのは、三回に分けて、三十一日間、真言宗十二、曹洞宗四、日蓮宗一、資料館一、地域のお堂一、個人一と、当初私が予想していたよりもかなり多く、かなり大変でしたが、お声かけていただいた案件に関しては、お応えせねばと頑張りました。

バラバラになった仏像を組み立てて、立っていたら、地域の復興を見守っていただきたいと思っています。また、能登半島は、總持寺祖院様や永光寺様などが中世からあったりする歴史の深い土地です。見回すと未指定の平安仏がたくさん残されていました。こ

れらも製作年代などをしっかりとお伝えして、今後もより大事にしたいだければと考えております。まだまだ復興の途についたばかりですが、今後も支援を続けていきたいと思ひます。

付則

写真は、七尾市の悦叟寺様の御像です。瑩山禅師御開山の羽咋市永光寺様が兼務されています。

住職より一言

松岡さんは、仏像文化財修復のエキスパートで、令和元年六月に発生した山形沖地震の影響で大破した東龍寺韋駄天様を見事に修復してくださいました（寺報三十二号掲載）。

また、御多忙の中、「文化財レスキュー」に参加された仏像修復への熱意に頭が下がります。

昨年御尊父がお亡くなりになり正式な檀家になられ、大変心強く感じております。

益々の御活躍をお祈りしております。

眼蔵会案内

第二十二回眼蔵会を七月三日（木）～五日（土）に行います。是非、ご参加ご修行ください。

初恋のメロディに乗って逝く

坐禅に親しむ会 三 澤 京 子

愛兄は厳かに天に還って逝きました。

令和六年三月十三日、小雪の舞い散る午前零時過ぎの病室でした。凡そ十三年の前立腺ガンの闘病生活にピリオドを打ちました。ベッドに横たわるまだ温もり残る兄の手をぎゅっと握り締めました。七十余年の人生の最期的一幕に妹の私が立ち合い見送り出来た喜びは、全ての万物に感謝しか無いと思えました。「頑張ったね、お疲れ様です!」「今まで本当に有難うございました」。

あれから季節は巡り間も無く早一年が経ちます。

兄は大阪で公務員となり三十年勤務した後退職し、田舎へのウタ



兄と私、令和5年9月25日

ーンを決意し両親の介護に専念する為に戻って来ました。父母との三人暮らしは新鮮で「田舎の空気はほんとにウマイな!」と。田舎暮らし二十年内、七年程健康でしたがそんな幸せのさ中に前立腺ガンを発症しました。最後の二年は入院を繰り返し脚も不自由となり車椅子での外来に付き添いました。その後医師やケアマネの勧めで在宅医療看護士を頼み七か月の余生を実家で過ごしました。

ある日の自宅で介護ベッドに寝ながら「独坐大雄峰」知っているかと訊ねてきました。坐禅会で聞き覚えが有ると思いつつ耳を澄ますと百丈禅師の禅語の意味を説き出しました。「たまたま此処に坐

って居るかのようだが偶然では無く必然な事で生まれ落ちて健康で今此処に坐る事が大事な奇特で尊いこと、有りの儘を受け入れる事だ」と小声で説明してくれ、続き「死は怖く無い、恐れる事は無い、ただ元に戻るだけの事よ」と。「親父にも先祖にも会えるし」と。私は半ば強がりかなと僅かな希望と諦め感じました。詰りは私に奥深い何かを伝えたかったのでしょう。

うね。

病床で話す兄の小学校の思い出は、父の転勤先の山形のマンモス校でした。毎朝校門に通じる一本道で会おう下級生の女の子。始業五分前に流れるオルゴール音色の「アーローリー」の曲が学校周辺に鳴り響く中、前と後ろに並ぶ二人で校門を潜るのが楽しい至福の日課だったと話す。「あの曲聞くと慶子ちゃん思い出すな」と、そんな初恋話をしみじみ話しました。今も独り身なのはそんなワケもあつたのでしょうか?

兄の一番の心残りは介護半ばで九十過ぎた母より先に逝く事かと察すると私まで悔しさが今も募ります。生前から仏様のような兄でしたが、もし今再現で兄の人生のカーテンコールが上がり呼び戻せるならその真意を聞いてみたいと思います。

兄の旅立ちの瞬間の壮行曲は個室中に響き渡るスマホから流れるアーローリーの曲でした。「うんうん、コレコレ!」と言わんばかりに首を縦に二度頷いて逝きました。

おわり

※あとがき

この文章を書かせていただき、兄への思いが更に強くなり、触れたくないところと、もつと話したかったとの思いの交錯やジレンマ

で迷う日もあったり、いつも私の相談の相手と成ってくれたカウンセラー的存在である兄が居なくなりました。抜け殻で一年間ボーッとしました。

でも、この文章を書くことで、兄への気持が吹っ切れ道が見えて来てふんわり軽くなり、お陰様で「兄の分もこの世の見聞をして報告する為に生きよう!!」と強く思うようになりました。本当に有り難うございました。感謝しきれません。

住職より一言

三澤さんは、私が坐禅の講座を行っている新潟日報カルチャースクールメディアシップ教室の会員



日報メディアシップでの坐禅、筆者左から2番目 令和7年1月30日

で熱心に楽しく坐禅に親しんでおられます。田上本山講や眼蔵会にもご参加下さり有り難く存じます。これから向きに一層の御精進を期待しております。

【東龍寺年中行持】

六月 金毘羅大祭

八月一日 うらばん会（盆参）

八月二四日 水子地藏尊並びに・

観音様大祭

九月二三日 秋のお彼岸会

（お彼岸の中旦）

十月十日 常齋米法要

十二月三十一日

除夜祭（除夜の鐘）

大般若祈禱会

一月一日 寺年始（近隣の檀家）

一月二日 寺年始（遠方の檀家）

三月二十日 春のお彼岸会

（お彼岸の中旦）

【令和六年度事業行持報告】

一、月に一度、照光殿二階・開山堂・

位牌堂の害獣防除を行っている。

一、三月二八日（木）～四月二日（火）、

露地から墓地の杉・雑木の整理を行

った。



墓地伐採樹木の整理 3月29日



墓地伐採樹木の搬出 4月2日

一、六月五日

（水）～八

日（土）、

白山ツルネ

駐車場、伐

採木の整理。

白山ツルネ駐車場、伐採木の整理
6月5日～8日

一、六月二八日（金）、照光殿一階の

照明をLEDにした。

照光殿一階の
照明をLEDに
6月28日

一、七月四日（木）、大型クレーンを入

れて、白山ツルネ枯木二本伐採し

た。

白山ツルネ枯木2本伐採
7月4日

一、七月四日（木）～六日（土）に、

駒沢大学教授角田泰隆老師を講師に

お招きし、第

二十一回眼蔵

会を講本「行

持の巻（七回

目）で、行い

て、足掛け

九年間かけ行

持の巻を終了

した。

五年ぶりに

寺での宿泊と

飯台を行った。

一、七月八日（月）午前十一時より、

第三十五回金毘羅大祭を行った。御

齋無し。

一、八月二四日（土）、第四六回水子

地藏・第二五回聖観世音菩薩大祭を



眼蔵会 7月4日



生沼宏祥老師の説教

行った。横場・

光明寺住職生沼

宏祥老師にお説

教をおつとめ頂

いた。御齋、無

一、九月二七日（金）、

曹洞宗第四宗務

所現職研修会一

泊二日の二日目

が東龍寺を会場

で行われ、住職が

講義をさせて頂

いた。

一、十月十三日（土）午後七時より、

田上町仏教会では、東龍寺を会場に、

講師に静岡県可睡斎住職采川道昭老

師をお招きし、第二十七回秋の講演

会を行った。

講演中の采川道昭老師
10月13日

一、十月十四日（月）第十三回湯田上

温泉温泉まつり「クラシックコン

サート」が本

堂で行われた。

田上在住の

ソプラノ歌手

の桑原純子氏

のテノール歌

手の洞口圭氏

のチェンバロ

の丸山洋子氏

のトリオで癒し

の時間を過ご

した。



温泉祭りコンサート 10月14日

一、十一月二七日（水）、新潟県第一

宗務所第三教

区寺族会一行

八名に、住職

が諸堂案内・

坐禅指導・法

話をつとめた。

一、一月二四日

（金）、位牌堂

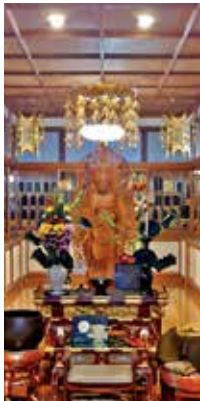
に照明を追加

した。部屋が

明るくなり、

観音様も拝み

やすくなった。

位牌堂照明追加工事
1月24日

【寄付御礼】

一、六月十七日（月）、三条市渡邊喜

彦氏（三条丸惣会長）の寄付により、

茶の間・方丈の間の簀戸の修理をし

て頂き、開け閉めがとてもスムーズ

になった。

簀戸の整備
6月17日三条丸惣寄付

一、二月十七日（月）～三月七日（金）

渡邊喜彦氏より、本堂の脇間・脇間

廊下の三九枚の畳表替えと、大縁の

三八枚の新調の畳をご寄付頂いた。

一、六月二二日(水) 田上小学校三年生、



田上中学校、名所探訪
6月4日

【参禅・参拝の報告】
一、三月十四日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員九名+1dayの方七名、坐禅二炷、お斎無し。
一、六月四日(火)、田上中学校一年生二五名、「田上町の名所・観光地について知る」という趣旨で東龍寺を参拝し、住職が歴史や由来、地域での役割などについて話した。



日報メディアシップ 3月14日



右脇間、畳表替え完了
2月21日



左脇間、畳表替え完了
2月18日



大縁、畳新調完了
3月6日



大縁、畳新調準備
2月27日

【令和七年度事業、行持案内】
一、七月三日(木)〜五日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第二十二回眼蔵会を講本「有時の巻」で、行う。
昨年引き続き、寺での宿泊と飯台を行う予定。
一、十月十二日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、

一、八月三日(土)、四日(日)の両日湯田上温泉宿泊のクラブツーリズム東京・名古屋の一行、両日併せて七十名+添乗員四名、朝、参禅。
一、九月十九日(木)、「日報メディアシップで坐禅に親しむ」の会員九名+1dayの方五名参加、坐禅二炷。お斎無し。
一、十月二十日(日)、新発田「子どもや地域を考える会」十四名、住職が東龍寺沿革を説明諸堂参拝。
一、十月二二日(月)、長澤瑩子氏と友人八名、参禅。



田上小学校3年生親子



ボーイスカウト新潟十五団

親子坐禅。児童二五名・保護者二二名・教員二名。
一、六月二二日(金)須佐製作所一行八名、参禅。
一、七月十三日(土)ボーイスカウト新潟十五団(亀田・横越地区)、五四名(団員二一名、保護者十二名、指導者五名)、参禅と掃除。

講師に京都府蓮久寺住職三木大雲老師をお招きし、第二十八回秋の講演会を予定している。
【月例加茂法話会】
一、毎月一回、夜、加茂市公民館を会場に、僧侶十一名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。
【月例坐禅会の御案内】
一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。
お気軽にご参加ください。
【梅花講のお知らせ】
一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。
【お盆、棚経の日程】
一、今年は、お盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。
【お盆前】
新潟・亀田・三条・巻・燕・白根
【十三日住職】
新潟・中山・赤浜・笠巻・三ツ屋・三枚潟・市ノ瀬・覚路津
【お盆中住職】
十四日 湯川・谷・中店
十五日 山崎・山田・湯古屋
十六日 加茂地区
【吉祥寺(光明寺)様】
十四日 川之下・原ヶ崎・下吉田
十五日 鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場
十六日 下吉田・羽生田・川船河
【少林寺様、若様】
十四日 本田上・上野
尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

編集後記

寺報三十七号を発刊するに当たり、山縣洋典老師・神田恭真師・田巻仁氏・松岡誠一氏・三澤京子氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。
二月六日に東龍寺の本寺・五泉寺橋田・吉祥寺住職・生沼信昭老師が遷化(亡くなること)されました。方丈様には昭和五五年三月に遷化した東龍寺二一世是戒弘道大和尚の葬儀の乗炬師(導師)をおつとめ頂いてからの御縁で大変お世話になって参りました。
また、若方丈様である宏祥師には、光明寺の住職として東龍寺の檀務の多くをお手伝い頂いてきました。今後は吉祥寺住職となられますが、東龍寺の末寺・光明寺を兼務しながら、いまままで同様に檀務のお手伝いをお願い致します。

住職 合掌

曹洞宗心の電話

TEL 0120-508-740
携帯電話 03-3454-5410

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞かせください。

永平寺電話説法

TEL 0776-63-3399

役家が、10日ごとに代わって、3分〜5分の法話を行っています。

新潟県第四宗務所テレホン (WEB) 法話

『和尚さんの言の葉』 TEL 0250-47-3132

第四宗務所ホームページ内でも法話を聴くことができます。こちらのQRコードをスマートフォンのバーコード機能を使って読み取ってください。

